



Nara
Women's
University

Today

編集：奈良女子大学広報企画室

第16号
2011.6.1

変われるもののみが生き残れる！



野口 誠之学長

去る2月22日のニュージーランド大地震、及び、3月11日の東日本大震災により、多くの方々が被災されました。尊い生命を失われた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご家族の皆様にご心からお悔やみ申し上げます。巨大地震、大津波、そして原子力発電所の崩壊により、今なお多くの皆様が過酷な環境下で復興に向けてご尽力されておられることに対し、心から敬意を表するものであります。

さて、平成23年度は、法人化第2期目の2年目に当たります。本学は、その歴史と伝統を生かし、常にその時代の女性に高度な教育研究の場を提供し、高度専門職業人、幅広い知見を持つ職業人として育成し、社会に輩出するという基本路線を堅持し、実績を積んできました。しかし、国から配分される運営費交付金や科学技術関連予算は、法人化後毎年削減され、更に、平成23年度予算政府原案では、例年の10倍規模の大幅削減案が提示され、大きな衝撃を受けました。幸い、全国の大学関係者、学生、学資負担者の皆様の圧倒的な支援の声が政府に届き、国立大学全体としては運営費交付金の削減に歯止めがかかり、いよいよ将来の発展に向けて、各大学が積極的に取り組む環境ができたと思われた矢先に、歴史上まれに見る大災害が発生しました。まさに国難と呼ぶべき事態に直面し、平成24年度以後の予算は、全く楽観を許さないものになりました。国から資金をもらっている団体には全て見直しがかげられることなのでしょう。国立大学とて例外ではないでしょう。

「変われるもののみが生き残れる」。ダーウィン著「種の起源」の一文です。これは、自然界の生物のみならず、全ての組織体（疑似生命体）に対しても当てはまります。環境の変化に対し、組織体自らが変化を遂げることが存続の必要条件であることを示しています。厳しい客観情勢の中で、本学は自らを見直し、様々な改善を行い、より強く逞しい大学に変身していかなければなりません。長期的、中期的、短期的にいかに変身していくかが問われています。この第一歩として、昨年度から、学長を中心に、様々な組織見直しを行ってきました。特に、教育研究組織の見直しについては学長、部局長、教育研究評議員が中心となり、検討を行ってきました。これは、学部・大学院全てを含む全学的な組織見直しであります。本年度は、この教育研究組織見直しを全学に開示し、多くの人達の協力のもと、よりよい具体案を構築し、実現に向けて邁進する決意でありますので、皆様方のご協力・ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

『伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点』事業のホームページ開設

文部科学省の科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」プログラムに選定された『伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点』事業のホームページを開設しました。

平成22年度は、女性研究者の新規採用、研究スキルアップシステムや若手研究者のサポートシステムなど種々のシステム構築を行うとともに、講演会を開催して、教職員のさらなる男女共同参画意識の啓発を行いました。また、広報誌を刊行しました。本事業におけるこれらの取組の成果など、今後ホームページから発信していきます。

『伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点』事業ホームページアドレス <http://www.nara-wu.ac.jp/j-kaikaku/>



平成23年度 新役員紹介

●役員（7名）

学長
理事（企画・研究担当）・副学長
理事（教育・学生支援担当）・副学長
理事（管理運営担当）・事務局長
理事（非常勤）
監事
監事 パナソニック株式会社理事・CSR担当室長

野口 誠之
富崎 松代
中島 道男
馬場 祐次郎
本田 元子
今井 啓一
鈴木 敦子

●経営協議会委員（10名）

学長
理事
理事
理事
理事
財団法人国際高等研究所長
木津川市長
和泉市教育委員会委員長
近畿日本鉄道株式会社 代表取締役会長
独立行政法人国立文化財機構 奈良国立博物館長

野口 誠之
富崎 松代
中島 道男
馬場 祐次郎
本田 元子
尾池 和夫
河井 規子
馬越 かよ子
山口 昌紀
湯山 賢一

●教育研究評議会評議員（16名）

学長
理事 兼 附属図書館長
理事 兼 附属学校部長
理事
文学部長
理学部長
生活環境学部長
大学院人間文化研究科長
文学部教授
文学部教授
理学部教授
理学部教授
生活環境学部教授
大学院人間文化研究科教授
文学部教授
理学部教授

野口 誠之
富崎 松代
中島 道男
馬場 祐次郎
三塚 博司
今岡 春樹
岩渕 修一
内田 聖二
小路 田直介
荒角 木正秀
増井 正哉
三木 健寿
栗岡 幹英
棚瀬 知明

大学生の就業力育成フォーラム開催

文部科学省の平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に選定された奈良県内5大学（奈良女子大学、奈良県立大学、帝塚山大学、天理大学、奈良佐保短期大学）による合同フォーラム「就業力育成－地域とともに－」を、3月に記念館において開催しました。基調講演として、就業力育成支援事業審査委員でもある、SRI インターナショナル日本代表の唐津治夢氏と、元京セラ社長で現同志社大学客員教授の西口泰夫氏にお越しいただき、社会と大学生をつなぐ架け橋である大学の存在価値や、グローバルな視野を持ち、かつ課題解決に謙虚に取り組む姿勢など企業が求める大学生像をテーマに語っていただきました。

続いて各選定大学における同事業の取組事例の紹介があり、本学は角田秀一郎理学部教授が採択課題「女性の生活様式を考慮したキャリア教育」について解説、女性としての社会的・職業的自立を促す「統合キャリア教育」を教育の中心に据えることを目指した本学の取組について紹介がありました。大学関係者のみならず奈良県内外の企業関係者も含めて100名を超える参加者があり、就業力育成に対する関心の高さが伺えました。



企業関係者からも質問が飛び交う

高島屋「大学は美味しい!!」フェアに出展

高島屋大阪店で3月に開催された第4回「大学は美味しい!!」フェアに出展しました。「大学は美味しい!!」フェアは、大学の研究成果が生んだ大学ブランド食品や大学関連グッズ等を紹介・販売するイベントで、本学は



店頭では学生が奮闘



奈良の桜ちいず

新宿店で開催された第1回目から参加しています。もはや定番となった清酒「奈良の八重桜」や菓子「奈良のかすていら」に加え、今回初登場となったのが「奈良の桜ちいず」。しっとりスフレタイプのチーズケーキですが、「奈良の桜くっきい」に続き奈良八重桜花酵母のお福わけ第2弾です。

奈良マラソン2010に協賛、ブース出店

奈良県内の各所で開催された平成遷都1300年祭を締めくくるイベントとして、奈良市鴻ノ池陸上競技場で「奈良マラソン2010」が12月に開催され、本学は同イベントに協賛、大会前日と当日に合わせて開催されたEXPO イベントにおいてブース出店を行いました。



こちらも学生が大活躍

ブースでは学生アルバイトを動員し、清酒「奈良の八重桜」や学生を主体とする「奈良の食プロジェクト」が考案した奈良漬を用いたクッキー・サブレなどのお菓子のほか、正倉院文様をあしらった雑貨等を紹介し、本学が取り組んできた奈良に関連する研究成果を広くPRしました。

ノーベル化学賞受賞者が記念館で講演

2009年のノーベル化学賞受賞者、アダ・E・ヨナット博士（イスラエル・ワイツマン研究所）が日本学術振興会「外国人著名研究者招聘事業」による大阪薬科大学の招きで来日し、12月に本学において講演を行いました。女性のノーベル化学賞受賞は45年振りで、ヨナット博士は4人目の受賞者です。



ヨナット博士(左から3人目)を囲む

記念館には、本学をはじめ近隣大学や研究所の学生・研究者など300人を超える聴衆が詰め掛けました。ヨナット博士は自身の研究過程の解説とともに、若い聴衆に対して、常に知的好奇心を忘れずに粘り強く努力することの大切さを強調されました。化学の最先端を走る女性研究者のエネルギッシュな講演は、後に続く学生・研究者にとって大きな刺激となりました。

平成23年春の記念館（重要文化財）一般公開

4月29日～5月5日の7日間、記念館（旧奈良女子高等師範学校本館、重要文化財）の一般公開を開催し、併せて「奈良女子大学百周年記念資料室完成記念展示」を実施しました。期間中、1千人を超える来館者を迎えましたが、歴史的建造物を興味深く観察される姿や、大学が所有する貴重な展示品に熱心に見入る姿が印象的でした。

記念館の一般公開は年に2回（春・秋）開催していますが、今年の秋の一般公開は10月末から開催する予定です。また、併せて実施する特別展示は「奈良女子大学所蔵正倉院模造宝物展」を予定しています。



正門と記念館（重要文化財）

公開講座のご案内

すべて無料です。
申込方法等詳細はホームページをご覧ください。

(<http://koto.nara-wu.ac.jp/1le/info4.html>)

■講座名	■開催日	■受講対象
日記と和歌	7月16日(土)	一般 100人
日本料理の魅力 一風土と風味一	7月31日(日)	一般 70人
夏の万葉歌	8月2日(火)	一般 200人
遺伝子解析の方法を体験しよう	8月2日(火)	教員 10人
生き物の数の変動の数理：希少動物の保全への応用	8月6日(土)	一般 80人
数学・エピソード2011	8月26日(金)	一般 80人
明日香村牽牛子塚古墳から出土した夾紵棺の科学分析	9月10日(土)	一般 100人
知っているつもりの健康運動	10月9日(日)	一般 70人
金融に関する「気をつけて欲しいこと 役立つ情報」 ～金融犯罪被害にあわないために、金融資産を守るために～	10月13日(木)	一般 50人
ミクロの世界の最前線	10月22日(土)	一般 40人
衣生活を愉しむ	11月26日(土)	一般 30人

附属中等教育学校・小学校が創立百周年の式典

平成 21 年度の大学創立百周年に続き、平成 22 年度は附属中等教育学校・附属小学校が、それぞれ創立百周年を迎えました。11 月 21 日には、県文化会館・奈良ホテルにおいて附属中等教育学校の記念式典・音楽会・祝賀会などが盛大に開催されました。3 月 19 日には、なら 100 年会館・ホテル日航奈良において、附属小学校の記念式典・記念同窓会が行われました。またそれらを記念して、大学構内のそれぞれの跡地には、当時の様子を解説したプレートが設置されました。



附属中等教育学校記念式典



附属小学校記念式典



附属高等女学校など跡地
(グラウンド脇)



附属小学校など跡地 (南門付近)

第 50 回ランチタイムコンサート

本学では、平成 6 年に重要文化財に指定された記念館 (旧奈良女子高等師範学校本館) の有効活用を図り、地域の文化振興に寄与することを目的として、毎月 1 回、平日の昼間にランチタイムコンサートを開催しています。平成 19 年 1 月の第 1 回開催から 4 年、平成 23 年 2 月の開催で、節目となる第 50 回目を迎えました。お昼休みを利用した 30 分間程度の短いコンサートですが、「歴史ある建物で気軽に音楽を楽しむことができる場」として、また「百年ピアノ」の人気も相まって、地域の方々を中心に非常に好評を得ており、毎回多数の方々にお越しいただいています。記念すべき第 50 回目のコンサートは、本学共生科学研究センター三方裕司准教授と学生 2 名で構成される、自称「愉快な仲間たち」に演奏していただきました。三方准教授による力強いトランペットの音色 (曲目: 奈良女子高等師範学校校歌) で幕を開けたコンサートでしたが、学生さんによるピアノとバイオリンの美しい二重奏や、出演者全員による息の合った三重奏が記念館いっぱいに響き渡りました。



ランチタイムコンサートの様子



百年ピアノ

奉安殿の解説プレート

大学の正門を入ってすぐ左手の文学系 S 棟の脇に、奉安殿が現存しています。前身の奈良女子高等師範学校創立 25 周年を記念して、同窓会の佐保会から寄贈されたものですが、3 月、その奉安殿を紹介するプレートが設置されました。



正門脇に現存する奉安殿

そもそも奉安殿とは、戦時中、全国の学校に下付された天皇・皇后の写真 (御真影) や教育勅語を納めていた建物です。戦後、学校から御真影が撤去されたことに伴い、全国各地でほとんどの奉安殿が解体されました。

本学に残るこの奉安殿ですが、一説には「本学の生物学教員が当時日本を占領していた GHQ (連合国軍最高司令官総司令部) と交渉し、遺伝の研究用にショウジョウバエの飼育室としてこの奉安殿を使用する許可を得たため、破壊を免れた」とも言われています。時代の変遷を物語る貴重な歴史の証人でもあり、本学にお立ち寄りの際にはぜひご覧ください。

東日本大震災 義援金の募集

東日本大震災の被災者の支援のために、学内関係者に義援金への募金を呼びかけました。また、複数の学生グループが、街頭や卒業式及び入学宣誓式で、被災者支援のための募金活動を実施しました。こうして集めた義援金は、とりまとめて日本赤十字社に全額寄附しました。大学では、引き続き義援金を募集しております。



募金を呼び掛ける学生ら

教育情報の公表

学校教育法施行規則等の一部を改正する省令 (平成 22 年文部科学省令第 15 号) に基づき、社会に対する説明責任及び教育の質を向上させる観点から、本学で行う教育に関する様々な情報を一つにまとめ、「教育情報の公表」として大学 Web サイトから発信しています。



平成23年3月31日付 定年退職教職員 (再雇用者を除く)

<文学部>
教授 弦巻克二

<生活環境学部>
教授 小城勝相
教授 清水哲郎



国際交流協定締結

－中国 大連理工大学と学生交流協定を締結－

2011年3月16日付けで大連理工大学と、短期交換留学に関する覚書を交わしました。本年10月には、初の交換留学生を受け入れる予定です。

－ドイツ Georg-August-Universität-Göttingen と共同博士学位指導に関する協定を締結－

ドイツ・ゲッチンゲン大学と研究協力に関する覚書を交わし、2011年2月16日付けで、共同博士学位指導に関する協定を締結しました。

日本留学フェア〔ベトナム〕

2010年11月20日(土)と21日(日)、ハノイ、ホーチミンで開催された日本学生支援機構(JASSO)主催の留学フェアに参加しました。来場者は合わせて1,219人、そのうち本学ブースには126人以上の訪問者がありました。22日(月)には、主催者側が開催した勉強会に参加し、ホーチミンの日本語教育の現場を視察することができました。



現地では帰国した卒業生が活躍

アフガニスタン女子教育支援

五女子大学コンソーシアム(お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学)とJICA(国際協力機構)との共催で、2011年1月11日(火)から28日(金)の間、アフガニスタンの女性教員を対象としてJICA青年研修が行われ、本学では、その中の1月20日(木)～22日(土)を担当し、19名の研修員を迎え、大学キャンパス、附属小学校、大柳生小学校、東大寺の4箇所で行われました。森本恵子教授による「女性の健康」の講義のほか、附属小学校や大柳生小学校では、授業参観と児童との交流を行いました。



児童との交流



初めての折り紙

日本語スピーチ大会と学長主催懇親会

2010年11月11日(木)、恒例の留学生による日本語スピーチ大会を開催し、そのあと生協食堂で学長主催の懇親会を行いました。学内外から多くの方の出席をいただき、留学生のパフォーマンスを楽しみました。スピーチ大会の優秀賞となった鉄玉霞さんは、12月2日(木)に行われた県下の大学間での大会に推薦され、結果準優秀賞の成績を残しました。



懇親会での記念撮影



スピーチ大会優秀賞の鉄玉霞さん

学長主催修了等留学生懇談会

2011年2月18日(金)、学長主催の修了・卒業外国人留学生懇談会が実施されました。3月に卒業・修了予定の留学生や自国に戻る交換留学生を囲んで、和やかに卒業・修了する外国人留学生とに歓談が行われました。学長から一人一人に記念品が手渡され、学生から一人ずつ感謝の言葉と今後の抱負が述べられました。



卒業・修了する外国人留学生と

海外協定大学への教員派遣事業

国際交流センターの事業として、昨年度は次の4つの大学に学生や博士研究員を帯同させて教員を派遣しました。詳しくは、国際交流センターNews Letterをご覧ください。



ベトナムの学生に囲まれて

- ・南京大学 9月21日(火)～9月28日(火) 吉川仁子 講師
- ・ハノイ大学 10月17日(日)～10月24日(日) 鈴木康史 准教授
- ・ベトナム国家大学ハノイ 外国語大学 10月31日(日)～11月7日(日) 内田忠賢 教授
- ・ベトナム国家大学ハノイ 人文社会科学大学 11月21日(日)～11月28日(日) 水垣源太郎 准教授

国際交流往来 (★は「往」 ☆は「来」を表します。)



国際協力懇談会

☆2011年1月27日(木)、カブール大学からDeeba Yosufzai 講師を迎え、国際協力懇談会を開催しました。アフガニスタンにおける大学の現状を知る貴重な機会となり、活発な意見交換がありました。

☆2010年12月3日(金)～14日(火)、国際交流センターのショートタームリターンプログラムで、大連理工大学 寶月珍教授を招聘し、研究交流等を行いました。12月10日(金)に講演会を開催し、大連理工大学の現状を中心として、中国の教育改革の動向や中国の学生の現状等をお話いただきました。



賓教授による講演

☆2011年3月14日(月)～18日(金)、英国レスター大学大学院のPeter Meacock 教授を招聘し、研究セミナー等を実施しました。

編集・発行 奈良女子大学広報企画室
 編集責任者 棚瀬知明
 連絡先 奈良女子大学総務・企画課
 〒630-8506 奈良市北魚屋東町
 Tel 0742 (20) 3220 Fax 0742 (20) 3205
 E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp



このほかにも、国際交流に関する情報を掲載していますので、リニューアルした「国際交流・留学 情報サイト」のウェブページをご覧ください。
<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/kokusai/index.html>